

下野市の人口構造の 変化と介護認定状況

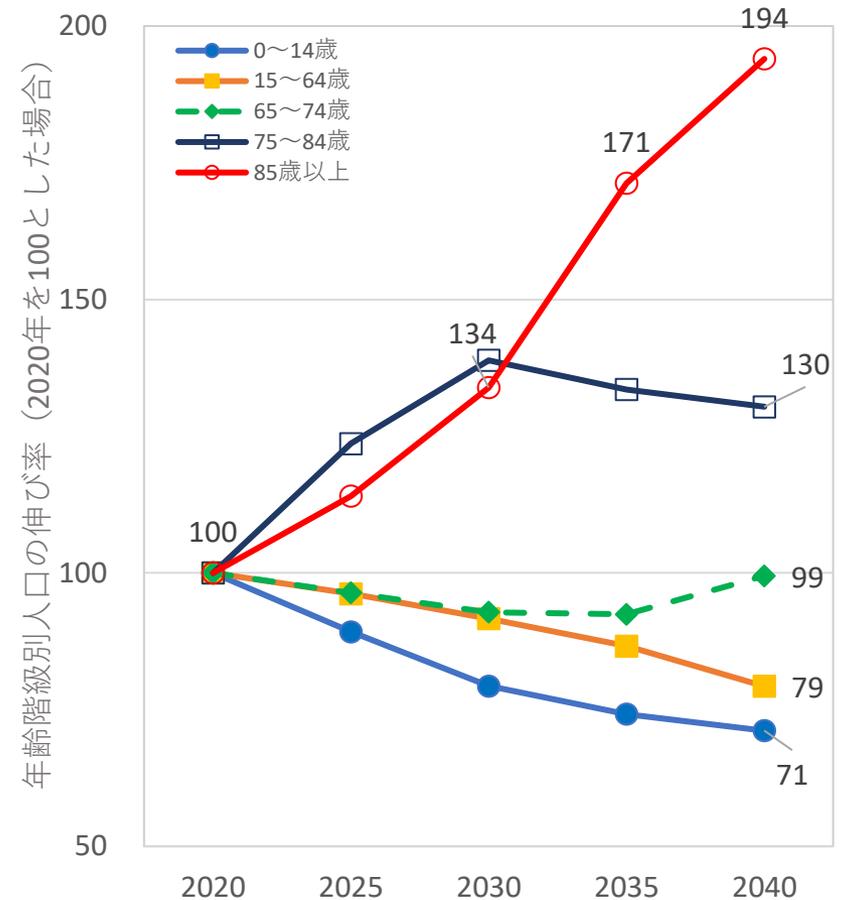
人口構造の変化

- 2020→2040年間で、総人口は6,093人(10.2%)、15-64歳人口は7,657人(20.7%)減少していく。
- 一方、85歳以上人口は、2,343→4,546人(1.9倍)に増加。2040年には総人口の8.5%を占める状況となる。
- 40歳以上人口は2020→2040年間で0.6%減で、介護保険料を納める人口は横ばいとなる。

図表1 2020→2040年の年齢階級別人口の変化

	2020		2040		変化量
	(人)	(%)	(人)	(%)	
総数	59,507	100.0	53,414	100.0	-6,093 (-10.2%)
0～14歳	7,229	12.1	5,142	9.6	-2,087 (-28.9%)
15～64歳	36,915	62.0	29,258	54.8	-7,657 (-20.7%)
65～74歳	8,105	13.6	8,059	15.1	-46 (-0.6%)
75～84歳	4,915	8.3	6,409	12.0	1,494 (+30.4%)
85歳以上	2,343	3.9	4,546	8.5	2,203 (+94.0%)
(再掲) 40歳以上	35,961	60.4	35,747	66.9	-214 (-0.6%)
(再掲) 65歳以上	15,363	25.8	19,014	35.6	3,651 (+23.8%)
(再掲) 75歳以上	7,258	12.2	10,955	20.5	3,697 (+50.9%)

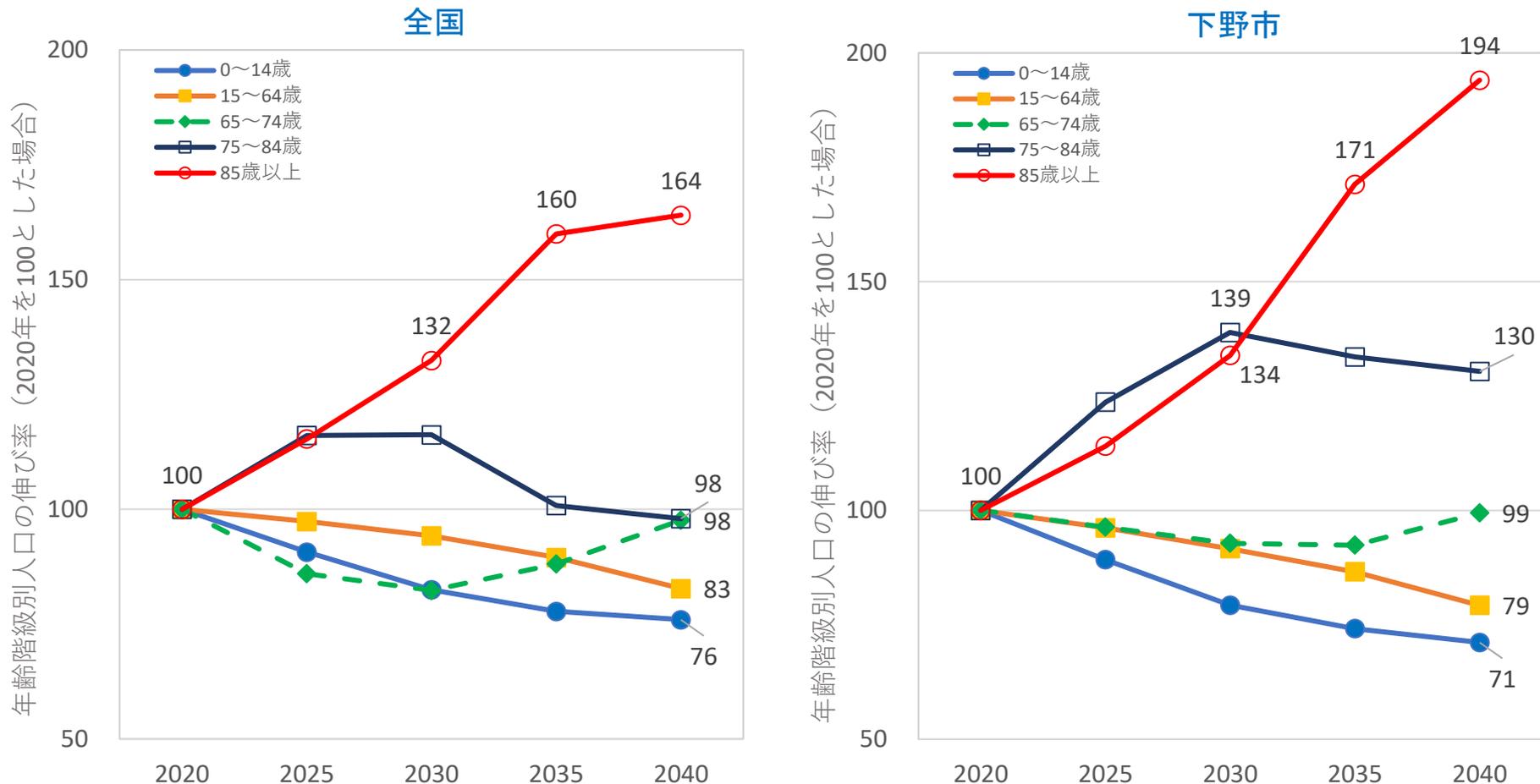
図表2 年齢階級別の人口の伸び率



人口構造の変化（全国との比較）

- 2020→2040年間の15-64歳人口の減少率は、「全国」17%、「下野市」21%と、下野市の方が高い。
- 85歳以上人口の増加率は、「全国」64%、「下野市」94%と、下野市の方が高い。
- 75歳-84歳人口は全国で2025年以降緩やかに減少するが、下野市では2030年まで増加した後の減少は緩やかで、2020→2040年間の増加率が30パーセントとなっている。

図表3 年齢階級別の人口の伸び率の全国との比較

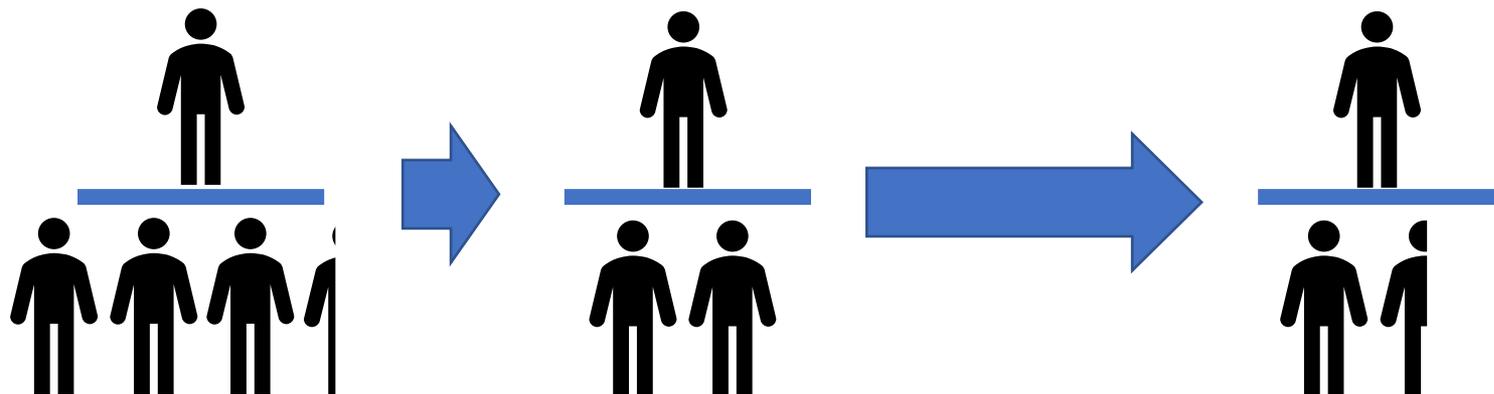


高齢者人口と20-64歳人口のバランスの変化

●65歳以上 1 人を何人の20-64歳人口で支えるかを見ると、2010年の3.19人から、2040年には1.45人に減少していく。

図表4 高齢者人数と20-64歳人口のバランスの変化

	2010	2020	2025	2030	2035	2040
65歳以上人口	1人	1人	1人	1人	1人	1人
20-64歳人口	3.19人	2.21人	1.99人	1.80人	1.66人	1.45人

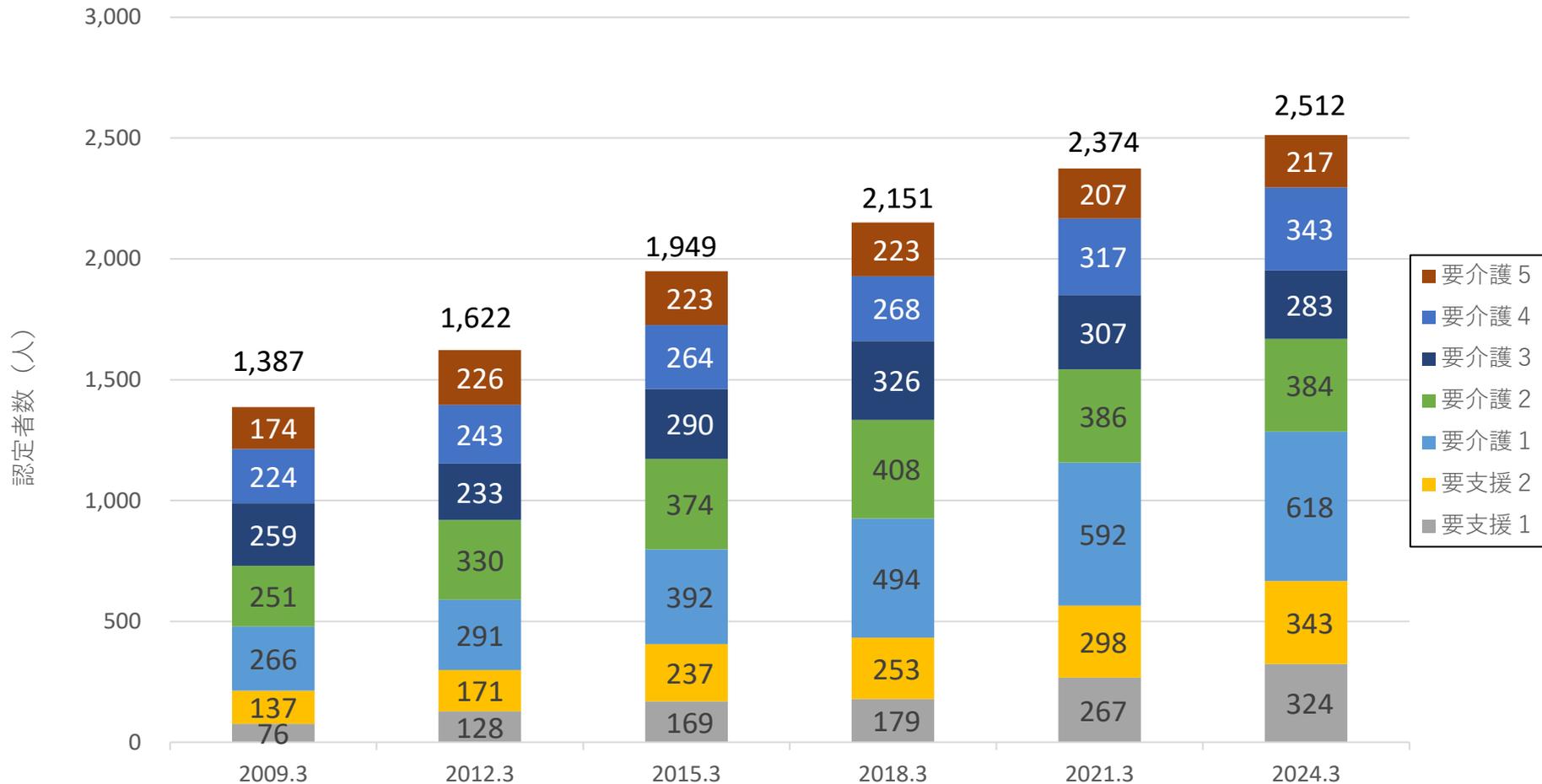


出所) 国立社会保障・人口問題研究所：日本の地域別将来推計人口（令和5年3月推計）より作成
2010年の値は栃木県毎月人口調査を使用

認定者数の増加

- 2024年3月末の認定者数は2,512人で、これを要介護度別にみると、「要介護1」が618人（24.6%）と最も多く、次いで「要介護2」384人（15.3%）、「要支援2」「要介護4」343人（13.7%）の順であった。
- 2009年3月と2024年3月を比較すると、「要支援1～要介護1」の割合が34.5%から51.2%に増加した。

図表5 要介護度別にみた認定者数の推移



要介護度別にみた認定者数の推移

- 2009年3月と2024年3月の認定者数の伸び率を要介護度別にみると、「要支援1」が4.27倍と最も高く、次いで「要支援2」2.50倍、「要介護1」2.32倍の順であった。

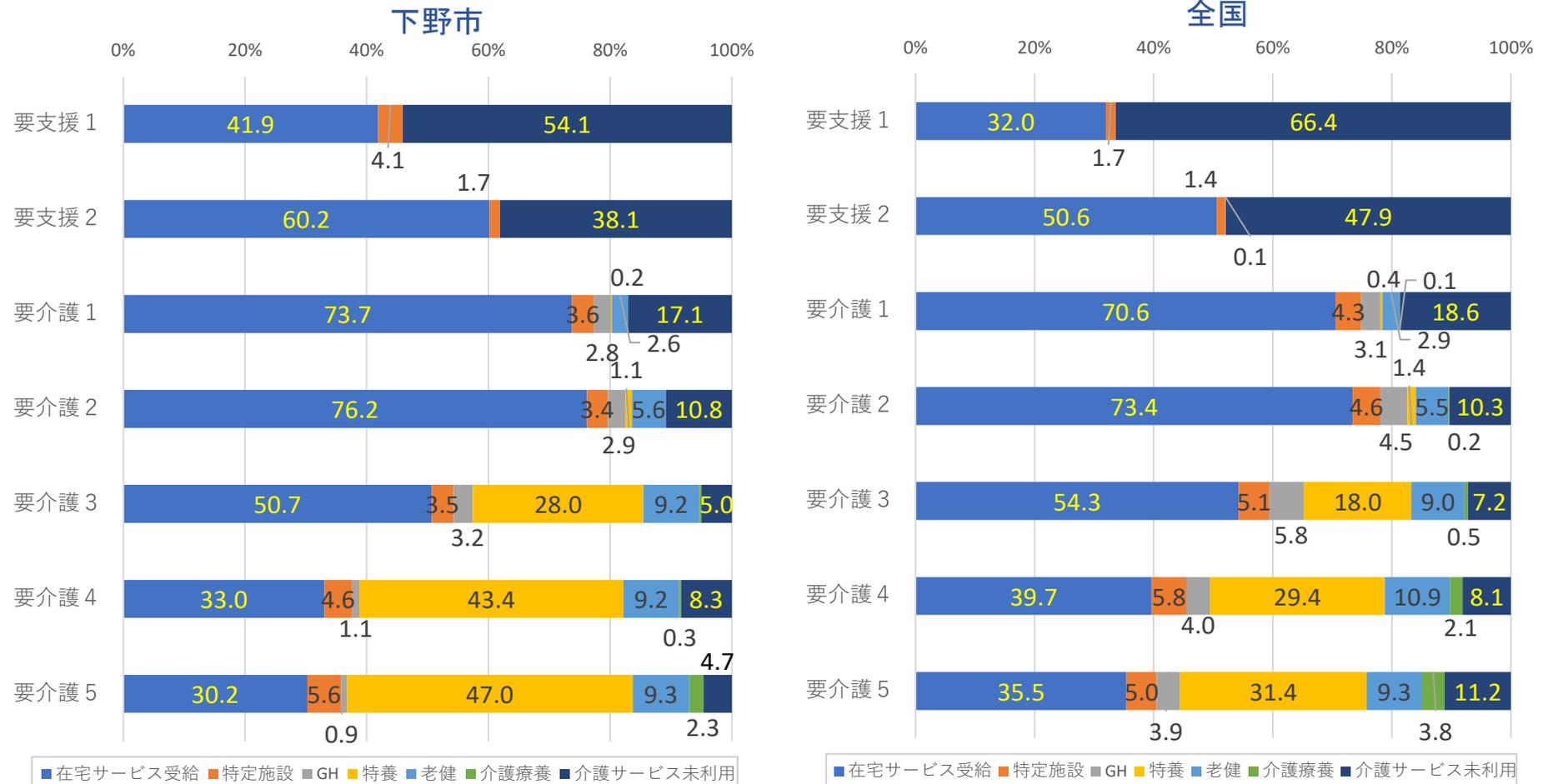
図表6 要介護度別にみた認定者数の伸び率の推移



要介護度別にみた療養場所

- 下野市では、要介護1・2の約7～8割が在宅でサービスを利用しながら生活しているが、重度になるにしたがってその割合は減少し、要介護4では33.3%、要介護5では30.2%であった。逆に、要介護3から特養入所者の割合が増加し、要介護5では47.0%を占めていた。全国に比べ、要介護5の在宅療養者の割合が低く、特養が高い状況にあった。
- 下野市では、要介護2・4以外の介護度で介護サービス未利用者は全国より低い状況であった。

図表7 要介護度別にみた療養場所の状況



注 要支援1・2には総合事業のサービス受給者が含まれる。事業対象者は、介護サービス未利用者に区分されるため、未利用者の割合が増えている可能性があることに留意が必要。

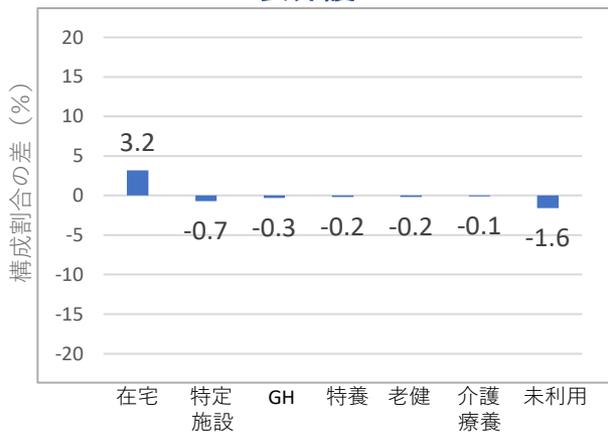
出所) 厚生労働省：「介護保険事業状況報告」(令和6年3月分)をもとに作成

要介護度別にみた療養場所の全国との差

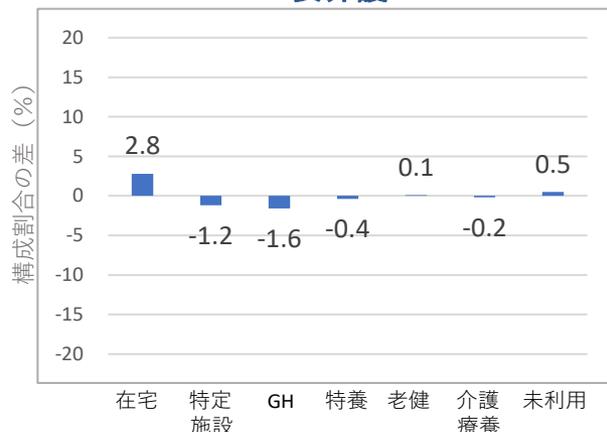
- 要介護者について、療養場所別認定者割合を全国と比較すると、要介護3以上において、下野市の方が、在宅サービス受給者の割合が低かった。
- 要介護3～5では、全国に比べ、特養入所者の割合が高い状況にあった。
- 要介護2・4以外の要介護度において、全国に比べ、サービス未利用者の割合が低い状況にあった（特に要介護5）。

図表8 要介護度別にみた全国と下野市の療養場所別認定者割合の差異（要介護者の場合）

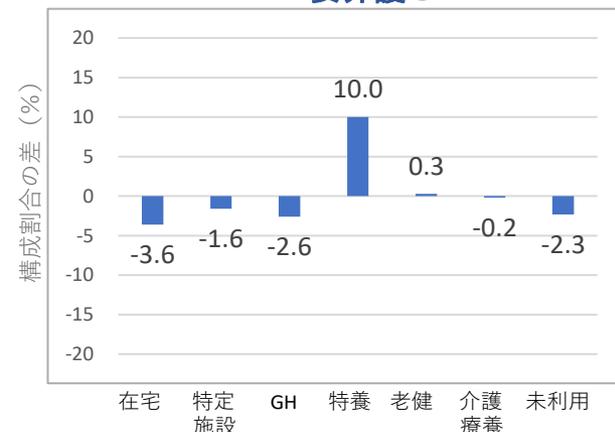
要介護 1



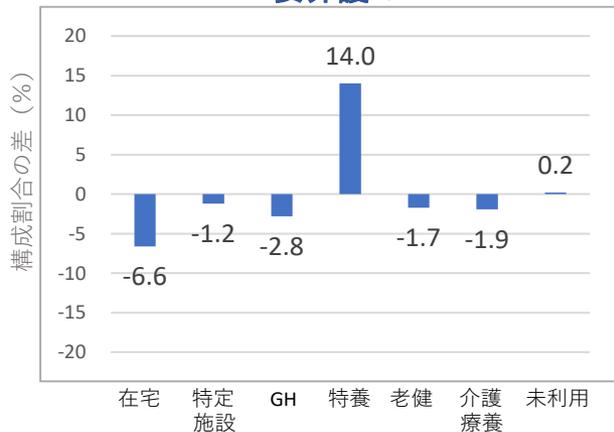
要介護 2



要介護 3



要介護 4



要介護 5

